



菅波 茂

南部アフリカは踏んだりけつたりの状況である。

特にAMDAが貧困対策プロジェクトを行っているザンビアは、ひどい状況だ。異常気象による大旱魃（かんぱつ）に襲われている。主食のトウモロコシが大不作だった。他人の不幸は己の幸せとばかりに買い占めも加わって、食料不足が深刻化している。東の隣国であるジンバブエでは、白人からの農場奪還紛争が食糧生産に打撃を与えている。北の隣国のマラウイではすでに餓死者が発生

## 南部アフリカの飢饉

している。

加えて、エイズの感染率が30%前後である。30〜40歳代の人達がエイズの発症で次々に死んでいる。子どもたちを死して、食料不足にエイズのダブルパンチである。

近年、世界で最も豊かな国である日本の東京でお年寄りの餓死者がでた時でも、国家破産して世界で最も貧しい国であるザンビアでは餓死者はでなかった。

ザンビアは血縁共同体の国である。余裕のある人が食べられない親戚（きんせき）に食を提供する相互扶助の習慣がある。しかし、今回の飢饉（うご）では死者がでる可能性が高い。飢饉の規模が相互扶助の範囲を逸脱している。

世界的な規模の旱魃と洪水

は2002年の自然災害の特徴である。ヨーロッパのドナウ河氾濫（はんらん）のニュースにアフリカ南部の飢饉の実態がかすんでいるが、事態は深刻だ。

AMDAは1997年よりザンビアの首都であるルサカ市の低所得者地区で、国際協力事業団と地域保健医療プロジェクトを実施している。

支援プロジェクトとして貧困対策のプロジェクトも実施。小規模融資、職業訓練そして識字教育などである。特筆すべきはコミュニティ農園だ。2002年6月に外務省

の草の根無償資金援助によりスプリンクラーが設置された。ようやく年間を通して農業ができる体制ができたばかりである。

AMDAザンビア支部から

緊急調査報告が届いた。田舎の村々では子どもたちが草をかじって命をつないでいる。動くべし。

ザンビアではAMDAを含めて3団体の日本のNGOが活動している。日本大使館にも協力いただいて、これらのNGOが共同で救援活動を開始することになった。飽食の日本から飢饉のザンビアへ。皆様のご支援をお願いしたい。

×

おことわり 前回（7月26日付）提言した「高校生国際理解奨学金制度」で「5万円無利息」としたのは、「25万円無利息」に改めます。

（アツア医師連絡協議会代表、題字も筆者）